



Cisco Prime Collaboration Deployment のインストール

- ・ [インストールのシステム要件 \(1 ページ\)](#)
- ・ [ブラウザ要件 \(2 ページ\)](#)
- ・ [IP アドレス要件 \(3 ページ\)](#)
- ・ [仮想化ソフトウェアのライセンス タイプ \(3 ページ\)](#)
- ・ [インストールに関する FAQ 情報 \(4 ページ\)](#)
- ・ [インストール前の作業 \(6 ページ\)](#)
- ・ [インストールの開始 \(14 ページ\)](#)
- ・ [Cisco Prime Collaboration Deployment のインストール \(15 ページ\)](#)
- ・ [インストール後のタスク \(19 ページ\)](#)

インストールのシステム要件

Cisco Prime Collaboration Deployment のインストールで使用する必要がある Open Visualization Format (OVA) で定義されているように、サーバの要件は次のようになります。

表 1: Cisco Prime Collaboration Deployment インストール サーバの要件

要件	注記
製品	Cisco Prime Collaboration Deployment
バージョン	12.6 (1)
CPU	2 vCPU
メモリ	4 GB
ハード ドライブ	80 GB (1)
ライセンス	Cisco Prime Collaboration Deployment にはライセンスは必要ありません。

要件	注記
ポート	22 Cisco Prime Collaboration Deployment で移行を実行するには、Cisco Unified Communications Manager と Cisco Prime Collaboration Deployment 間にポート 22 が必要です。

ブラウザ要件

Cisco Prime Collaboration Deployment は、システムの設定および管理に使用できる GUI インターフェイスを提供します。このインターフェイスにアクセスするために使用できるブラウザとオペレーティング システムを次に示します。



(注) それ以外のブラウザはサポートされません。

Cisco Prime Collaboration Deployment は、次のオペレーティング システムのブラウザをサポートします。

- Mozilla Firefox 42
- Mozilla Firefox ESR 38.4
- Google Chrome 46
- Microsoft Internet Explorer (IE) 9、10、11
- Apple Safari 7

ネットワーク内の任意のユーザ PC から、Cisco Prime Collaboration Deployment を実行するサーバを参照し、管理者権限でログインします。



(注) 6 人以上のユーザが Cisco Prime Collaboration Deployment Administration GUI に同時にログインしようとする、パフォーマンスに影響する可能性があります。同時にログオンできるユーザと管理者の数を制限してください。



(注) Cisco Prime Collaboration Deployment Administration はブラウザ内のボタンをサポートしません。設定作業を行うときは、[Back (戻る)] ボタンなどのブラウザ ボタンを使用しないでください。

IP アドレス要件

サーバが確実に固定 IP アドレスを取得するようにするため、静的 IP アドレスを使用するように Cisco Prime Collaboration Deployment を設定する必要があります。

仮想化ソフトウェアのライセンス タイプ

Cisco Prime Collaboration Deployment が稼働する追加の ESXi 物理サーバの他に、Cisco Prime Collaboration Deployment 仮想マシンがホストされている ESXi の物理サーバに対しては、VMware vSphere ESXi ライセンスが必要です。これには、Cisco Prime Collaboration Deployment が移行、インストール、アップグレード、または再起動される仮想マシンも含まれます。

Cisco Prime Collaboration Deployment には、VMware vSphere ESXi の一部のライセンス タイプとの互換性がありません。これは、VMware vSphere ESXi の一部のライセンスでは、必須の VMware API が有効にならないためです。



(注) Cisco Business Edition 6000 サーバと Cisco Business Edition 7000 サーバには Cisco UC Virtualization Hypervisor がプリインストールされています。これらのサーバでアプリケーション VM とともに Cisco Prime Collaboration Deployment を使用する予定の場合は、高い仮想ソフトウェア機能レベルを代わりに使用する必要があります。

以下のものが Cisco Prime Collaboration Deployment と互換性があります。

- Cisco UC Virtualization Foundation 6x (vSphere Client では、「Foundation Edition」と表示)
- Cisco UC Virtualization Hypervisor Plus 6x
- Cisco Collaboration Virtualization Standard 6x
- VMware vSphere Standard Edition 6x
- VMware vSphere Enterprise Plus Edition 6x (「Enterprise Edition」は存在しません)
- 評価モードのライセンス

(たとえば、実稼働使用向けではなく、ラボ導入向け)

以下のものは Cisco Prime Collaboration Deployment と互換性がありません。

- Cisco UC Virtualization Hypervisor (vSphere Client では「Hypervisor Edition」と表示されます)
- VMware vSphere Hypervisor Edition

インストールに関する FAQ 情報

この項は、インストールを開始する前によく確認してください。

インストールにはどのくらい時間がかかりますか。

インストール前後のタスクを除く、Cisco Prime Collaboration Deployment インストールの全体的なプロセスは、約 30 分かかります。

どのユーザ名およびパスワードを設定する必要がありますか。



(注) システムはパスワードの強固さをチェックします。強固なパスワードの作成に関するガイドラインについては、以下の「「強固なパスワードとはどのようなパスワードですか」」を参照してください。

インストール中に指定する必要があるユーザ名およびパスワードは次のとおりです。

- 管理者アカウント ユーザ名およびパスワード
- セキュリティ パスワード

管理者アカウント ユーザ名およびパスワードは、以下にログインする際に使用します。

- Cisco Prime Collaboration Deployment GUI インターフェイス
- コマンドライン インターフェイス

管理者アカウントのユーザ名とパスワードを選択する場合は、次のガイドラインに従ってください。

- 管理者アカウントのユーザ名：先頭の文字は英字である必要があります。英数字、ハイフン、および下線を使用できます。
- 管理者アカウントパスワード：少なくとも 6 文字以上、英数字、スペース、コロン (:)、ハイフン ()、二重引用符 (")、コンマ (,)、二重引用符 (")、スラッシュ (/)、大かっこ ({})、角かっこ ([])、チルダ (~)、\$ マーク (\$)、イコール (=)、プラス (+)、パーセント記号 (%)、アンパサンド (&)、アンダースコア (_)、感嘆符 (!)、アットマーク (@)、シャープ (#)、アスタリスク (*)、キャレット (^)、かっこ ()、垂直バー (|)、ピリオド (.) を含むことができます。

パスワードに、セミコロン (;)、山カッコ (<>)、単一引用符 (')、疑問符 (?) を含めることはできません。

コマンドライン インターフェイスを使用して、管理者アカウント パスワードを変更したり、新しい管理者アカウントを追加したりすることができます。詳細については、*Cisco Prime Collaboration Deployment* のコマンドライン インターフェイスの項を参照してください。

セキュリティパスワードは、長さ6文字以上にしてください。パスワードには英数字、ハイフン、アンダースコアを使用できます。



- (注) FIPSモード、コモンクライテリア、または拡張セキュリティモードを有効にする前に、セキュリティパスワードが最小14文字以下であることを確認します。

強固なパスワードとはどのようなパスワードですか。

インストールウィザードは、入力されたパスワードの強固さをチェックします。強固なパスワードを作成するには、次の推奨事項に従ってください。

- 大文字と小文字を併用します。
- 文字と数字を併用します。
- ハイフンと下線を含めます。
- 長いパスワードほど強固であり、短いパスワードよりも安全であることに留意してください。

以下のようなパスワードは避けてください。

- 固有名詞や辞書に載っている単語など、意味を持つ単語は使用しないでください。また、これらと数字を組み合わせて使用することも避けてください。
- 意味を持つ単語を逆向きに読んだ語句も使用しないでください。
- aaabbb、qwerty、zyxwvuts、123321 など、一定のパターンの語句や数字は使用しないでください。
- 他の言語において意味を持つ単語は使用しないでください。
- 誕生日、郵便番号、子供やペットの名前など、個人情報を使用しないでください。



- (注) ESXi パスワードが32文字未満であること、クラスタパスワード（インストール/検出済み/移行）が16文字未満であり、許可されている特殊文字について記述した前のセクションに準拠していることを確認します。

Cisco Unified Communications Manager で許可されているパスワード形式の制限の詳細については、<https://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/unified-communications-manager-callmanager/products-maintenance-guides-list.html> の『Cisco Unified Communications Manager および IM and Presence 向けアドミニストレーションガイド』を参照してください。

仮想マシンに他のソフトウェアをインストールできますか。

承認されていないサードパーティー製ソフトウェアアプリケーションはインストールまたは使用できません。システムがアップロードおよび処理できるのは、シスコが承認したソフトウェアのみです。

CLIを使用して、承認されているソフトウェアのインストールとアップグレードを行うことができます。

インストール前の作業

次の表に、Cisco Prime Collaboration Deployment をインストールするために実行する必要があるインストール前のタスクを示します。

表 2: インストール前のタスク

	タスク
ステップ 1	この章をすべて読み、インストール手順を理解します。
ステップ 2	Cisco Prime Collaboration Deployment のインストールを予定しているサーバが DNS で正しく設定されていることを確認します。
ステップ 3 :	インストールするサーバの設定内容を記録します。

ネットワーク トラフィックの許可

ここでは、Cisco Prime Collaboration Deployment サーバをサポートするために設定する必要がある最小限のポートについて説明します。次の表は、企業ファイアウォール上で設定する必要があるポートの概要を示します。この表に示されるポート設定は、デフォルトの設定に基づいています。デフォルト設定を変更した場合、これらの設定を更新する必要があります。

ネットワーク上で他のサーバまたはポートが必要な場合、そのトラフィックを考慮する必要があります。



(注) Cisco Prime Collaboration Deployment の移行では、宛先仮想マシンの ESXi ホスト上でネットワーク ファイル システム (NFS) マウントを使用する必要があります。追加のプロトコルやポートが必要になる場合もあります。詳細については、<http://www.VMware.com> で ESXi のドキュメントを参照してください。

表 3: 企業ファイアウォールの設定

方向	ソース	宛先	プロトコル	ポート	説明
着信	Cisco Prime Collaboration Deployment	FTP サーバの IP アドレス	TCP	21	ライセンスおよびソフトウェアのアップロード、アップグレード、および CLI アクセスのための Cisco Prime Collaboration Deployment サーバへの FTP アクセス
着信	Cisco Prime Collaboration Deployment	SFTP サーバの IP アドレス	TCP	22	ライセンスおよびソフトウェアのアップロード、アップグレード、および CLI アクセスのための Cisco Prime Collaboration Deployment サーバへの SFTP アクセス
着信	内部ネットワークまたは任意の管理ワークステーション	Cisco Prime Collaboration Deployment サーバ IP アドレス	HTTP	80	非セキュアな GUI および Web API（ログイン ページなど）への HTTP アクセス
着信	UC アプリケーション サーバ	Cisco Prime Collaboration Deployment サーバ IP アドレス	TCP/UDP	111	ネットワーク ファイル システム

方向	ソース	宛先	プロトコル	ポート	説明
着信	内部ネットワークまたは任意の管理ワークステーション	Cisco Prime Collaboration Deployment サーバ IP アドレス	HTTPS	443	セキュアな GUI および Web API への HTTPS アクセス
着信	UCアプリケーション サーバ	Cisco Prime Collaboration Deployment サーバ IP アドレス	TCP/UDP	662	ネットワークファイルシステム
着信	UCアプリケーション サーバ	Cisco Prime Collaboration Deployment サーバ IP アドレス	TCP/UDP	892	ネットワークファイルシステム
着信	UCアプリケーション サーバ	Cisco Prime Collaboration Deployment サーバ IP アドレス	TCP/UDP	2049	ネットワークファイルシステム
着信	UCアプリケーション サーバ	Cisco Prime Collaboration Deployment サーバ IP アドレス	HTTPS	6060	アプリケーション サーバからの非同期 SOAP メッセージ
着信	内部ネットワークまたは任意の管理ワークステーション	Cisco Prime Collaboration Deployment サーバ IP アドレス	HTTPS	8443	HTTP Alternate
着信	内部ネットワークまたは任意の管理ワークステーション	Cisco Prime Collaboration Deployment サーバ IP アドレス	HTTP	8080	HTTP Alternate
着信	UCアプリケーション サーバ	Cisco Prime Collaboration Deployment サーバ IP アドレス	UDP	32769	ネットワークファイルシステム

方向	ソース	宛先	プロトコル	ポート	説明
着信	UC アプリケーション サーバ	Cisco Prime Collaboration Deployment サーバ IP アドレス	TCP	32803	ネットワーク ファイル システム

表 4: タスクに対するコマンドラインインターフェイス (CLI) /Cisco Platform Administrative Web Services (PAWS) の使用

機能/要件	クラスタ 検出	移行	COP ファイルの アップグレード インストール	再起動	バージョン切り替え	フレッシュインストール編集/ 拡張	再アドレス付けタスク
VMware API	なし	あり	なし	なし	なし	あり	なし
仮想マシンの宛先の ESXi ホスト上の NFS マウント	なし	はい (ISO インストールイ メージ)	なし	なし	なし	はい (ISO インストールイ メージ)	なし
ローカルまたはリ モート SFTP (注) 移行は、 リモート SFTP では 実行され ません。	なし	はい (データ エクスポート/ インポートのみ)	はい (ISO アップグレード イメージ)	なし	なし	なし	なし
PAWS	はい (UCM 10.0+ の調整時) いいえ (UCM 6.1.5-9.1 の 調整時 (代わりに CLI を使用))		対応	対応	対応	なし	あり
SSH 経由の CLI	対応	対応	なし	なし	なし	なし	なし

インストール用の情報の収集

Cisco Prime Collaboration Deployment に関する情報を記録するには、次の表を使用してください。すべての情報を入手する必要はありません。システムおよびネットワーク設定に関連する情報のみ収集してください。



(注) フィールドの一部は省略可能であるため、設定に適用されない場合があります。



注意 フィールドの一部はインストールが完了してしまうと、ソフトウェアを再インストールしない限り変更できなくなります。そのため、適切な値を入力するように注意してください。表の一番右の列に、インストール後にフィールドを変更できるかどうかを示されています。変更可能な場合は、該当する CLI コマンドを記載しています。

表 5: サーバの設定データ

パラメータ	説明	インストール後のエントリ変更の可否
Administrator ID	このフィールドは、Cisco Prime Collaboration Deployment 上の CLI へのシェルアクセスをセキュアにするために使用する管理者アカウント ユーザ ID を指定します。	不可。インストール後、エントリは変更できません。 (注) インストール後、管理者アカウントを追加作成することはできますが、元の管理者アカウント ユーザ ID は変更できません。
Administrator Password	このフィールドは、CLI へのセキュアなシェルアクセスのために使用する管理者アカウントのパスワードを指定します。 このパスワードは、adminsftp ユーザが使用することもできます。adminsftp ユーザは、ローカルバックアップファイルへのアクセスやサーバライセンスのアップロードなどに使用します。 パスワードは最低 6 文字とし、英数字、ハイフン、アンダースコアを使用するようにします。	可。インストール後、次の CLI コマンドを実行してエントリを変更できます。 set password user admin
国	一覧から、インストールを行う該当する国を選択します。	可。インストール後、次の CLI コマンドを実行してエントリを変更できます。 set web-security

パラメータ	説明	インストール後のエントリ変更の可否
DHCP	[DHCP] オプションには、[いいえ (No)] を選択する必要があります。[いいえ (No)] を選択した場合は、ホスト名、IP アドレス、IP マスク、ゲートウェイを入力する必要があります。	不可。インストール後、エントリを変更してはなりません。
DNS 有効	DNS サーバがホスト名を IP アドレスへ、または IP アドレスをホスト名へ解決します。 Cisco Prime Collaboration Deployment では DNS サーバを使用する必要があります。[はい (Yes)] を選択して、DNS を有効にします。	不可。インストール後、エントリを変更してはなりません。
DNS プライマリ	プライマリ DNS サーバとして指定する DNS サーバの IP アドレスを入力します。IP アドレスは、ドット付き 10 進表記 (ddd.ddd.ddd.ddd) で入力します。	可。インストール後、次の CLI コマンドを実行してエントリを変更できます。 set network dns DNS とネットワーク情報を表示するには、次の CLI コマンドを実行します。 show network eth0 detail
DNS セカンダリ (省略可能)	オプションのセカンダリ DNS サーバとして指定する DNS サーバの IP アドレスを入力します。	可。インストール後、次の CLI コマンドを実行してエントリを変更できます。 set network dns
ゲートウェイ アドレス	ネットワーク ゲートウェイの IP アドレスを入力します。 ゲートウェイがない場合も、このフィールドを 255.255.255.255 に設定する必要があります。ゲートウェイがない場合、サブネット上のデバイスのみとの通信に限定されることがあります。	可。インストール後、次の CLI コマンドを実行してエントリを変更できます。 set network gateway

パラメータ	説明	インストール後のエントリ変更の可否
ホスト名	<p>サーバに対する一意のホスト名を入力します。</p> <p>ホスト名の長さは最大 64 文字です。英数字とハイフン (-) を使用できます。ただし、最初の文字をハイフンにすることはできません。</p> <p>重要 タスクの実行中には、ホスト名を変更しないでください。</p>	<p>可。インストール後、エントリを変更できます。</p> <p>set network hostname</p>
IP アドレス	<p>サーバの IP アドレスを入力します。</p>	<p>可。インストール後、エントリを変更できます。</p> <p>set network ip eth0</p>
IP マスク	<p>このマシンの IP サブネットマスクを入力します。</p>	<p>可。インストール後、次の CLI コマンドを使用してエントリを変更できます。</p> <p>set network ip eth0</p>
所在地	<p>サーバの場所を入力します。</p> <p>組織内の識別できる任意の場所を入力できます。たとえば、サーバが設置されている都道府県や市区町村などを入力します。</p>	<p>可。インストール後、次の CLI コマンドを使用してエントリを変更できます。</p> <p>set web-security</p>
MTU サイズ	<p>MTU (Maximum Transmission Unit) は、このホストがネットワークで転送する最大パケットをバイト単位で表します。</p> <p>使用するネットワークの MTU サイズをバイト単位で入力します。ネットワークの MTU 設定が不明な場合は、デフォルト値を使用します。</p> <p>デフォルト値は 1500 バイトです。</p>	<p>可。インストール後、次の CLI コマンドを実行してエントリを変更できます。</p> <p>set network mtu</p>

パラメータ	説明	インストール後のエントリ変更の可否
NTP サーバ	<p>同期する 1 台または複数のネットワーク タイム プロトコル (NTP) サーバのホスト名または IP アドレスを入力します。</p> <p>最大 5 台の NTP サーバを入力できます。</p> <p>注意 発生する可能性のある互換性の問題、精度の問題、およびネットワーク ジッターの問題を回避するには、プライマリ ノードに指定する外部 NTP サーバが NTP v4 (バージョン 4) にします。IPv6 アドレッシングを使用している場合は、外部 NTP サーバが NTP v4 である必要があります。</p>	<p>可。インストール後、次の CLI コマンドを実行してエントリを変更できます。</p> <p>utils ntp server</p>
マニュアルの構成	<p>組織の名前を入力します。</p> <p>ヒント このフィールドを使用して、複数の組織ユニットを入力できます。複数の組織ユニット名を入力するには、エントリをカンマで区切ります。カンマを含むエントリは、エントリ内のカンマの前にバックスラッシュを入力します。</p>	<p>可。インストール後、次の CLI コマンドを実行してエントリを変更できます。</p> <p>set web-security</p>

パラメータ	説明	インストール後のエントリ変更の可否
セキュリティ パスワード	<p>セキュリティパスワードを入力します。</p> <p>このパスワードは、6 文字以上の英数字にする必要があります。パスワードにはハイフンおよび下線を使用できますが、先頭は英数字にする必要があります。</p> <p>(注) このパスワードを保存してください。</p> <p>(注) FIPS モード、コモンクライテリア、または拡張セキュリティモードを有効にする前に、セキュリティパスワードが最小 14 文字以下であることを確認します。</p>	<p>可。インストール後、次の CLI コマンドを実行してエントリを変更できます。</p> <p>set password user security</p>
状態	<p>サーバが配置されている州/都道府県を入力します。</p>	<p>可。インストール後、次の CLI コマンドを実行してエントリを変更できます。</p> <p>set web-security</p>
タイムゾーン	<p>ローカル タイムゾーンおよびグリニッジ標準時 (GMT) との時差を指定します。</p> <p>マシンの場所に最も近いタイムゾーンを選択します。</p>	<p>可。インストール後、次の CLI コマンドを実行してエントリを変更できます。</p> <p>set timezone</p> <p>現在のタイムゾーン設定を表示するには、次の CLI コマンドを実行します。</p> <p>show timezone config</p>

インストールの開始

1 つのインストールプログラムを実行することでオペレーティングシステムと Cisco Prime Collaboration Deployment をインストールします。

インストールウィザードの操作方法については、次の表を参照してください。

表 6: インストールウィザードの操作

操作内容	使用するキー
次のフィールドへ移動する	Tab
前のフィールドへ移動する	Alt+Tab
オプションを選択する	Space バーまたは Enter
一覧を上下へスクロールする	上下の矢印キー
前のウィンドウへ移動する	Space バーまたは Enter キーを押し、[戻る (Back)] を選択 (使用可能な場合)
ウィンドウに関するヘルプ情報を参照する	Space バーまたは Enter キーを押し、[ヘルプ (Help)] を選択 (使用可能な場合)

Cisco Prime Collaboration Deployment のインストール

PCD_VAPP.OVA ファイルの抽出

新規購入の場合、または Product Upgrade Tool (PUT) からアクセスする対象アップグレードの場合、Cisco Prime Collaboration Deployment には Unified Communications Manager が付属しています。

PUT で物理的な媒体の配送を指定した場合は、ISO ファイルが含まれている DVD を受け取ります。このファイルを実行して OVA ファイルを取得します。この OVA ファイルでは、仮想マシン内部に Cisco Prime Collaboration Deployment がプリインストールされています。

PUT で eDelivery を指定した場合は、メディアおよびライセンス リンクが記載されている電子メールに、Cisco Prime Collaboration Deployment のダウンロードリンクが記載されています。このリンクは、仮想マシン内部に Cisco Prime Collaboration Deployment がプリインストールされている OVA ファイルを指し示します。

手順

ステップ 1 pcd_vApp_UCOS_10.xxxxx.iso ファイルから PCD_VAPP.OVA を抽出します。

新しい PCD_VAPP.OVA ファイルが作成されます。ファイルサイズを確認します。ISO および OVA ファイルのサイズは異なっています。

ステップ 2 Cisco Prime Collaboration Deployment をインストールするために vCenter に PCD_VAPP.OVA ファイルを展開します。

vSphere クライアントを使用している場合、このファイルの名前が **PCD_VAPP.OVA** であることがあります。VMware vSphere Web クライアントを使用してファイルを導入する場合、ファイルを導入する前にその名前を **PCD_VAPP.ova**（小文字）に変更する必要があります。

仮想マシンのインストール

始める前に

- OVA イメージをダウンロードします。



(注) Cisco Collaboration Systems リリース 11.5 以降が出荷時にロード済みの Cisco Business Edition 6000 または Cisco Business Edition 7000 アプライアンスを使用する場合は、OVA イメージをダウンロードする必要がありません。Cisco Prime Collaboration Deployment OVA は、アプライアンスのデータストア内で使用できます。詳細については、<http://www.cisco.com/c/en/us/products/unified-communications/business-edition-6000/index.html> または <http://www.cisco.com/c/en/us/products/unified-communications/business-edition-7000/index.html> を参照してください。

- 「インストール前のタスク」の項を参照します。
- 使用しているインストールタイプに応じて、ローカルドライブに OVA のコピーを配置します。

インストールタイプ	ファイル名	ESXi Host のソフトウェアバージョンで使用
OVA	<p>PCD_VAPP.OVA または PCD_VAPP.ova</p> <p>(注) OVA ファイルの名前は、ファイルの展開に vSphere Client または VMware vSphere Web クライアントを使用しているかどうかによって異なります。詳細については、PCD_VAPP.OVA ファイルの抽出 (15 ページ) を参照してください。</p>	4.1、5.0、5.5、6.0、および 6.5

- Cisco Prime Collaboration Deployment の仮想マシンの作成および必須ポート グループのマッピングのために、以下の情報を決定します。
 - インベントリ フォルダ内で固有で、80 文字以下の新しい Cisco Prime Collaboration Deployment の名前。
 - Cisco Prime Collaboration Deployment をインストールするインベントリ フォルダがあるホストの名前。
 - VM ファイルを保存するデータストアの名前。
 - VM に使用されるネットワーク ポート グループの名前。



(注) Cisco Prime Collaboration Deployment は、VXLAN 上での仮想マシン実装をサポートしません。

手順

- ステップ 1** vCenter にログインします。
- ステップ 2** [vSphere クライアント (vSphere Client)] で、[ファイル (File)] > [OVF テンプレートの展開 (Deploy OVF Template)] を選択します。
- ステップ 3** OVA ファイルの場所を指定し、[次へ (Next)] をクリックします。
[OVF テンプレートの詳細 (OVF Template Details)] ウィンドウが開き、ファイルサイズや VM ディスク サイズなどの製品情報が表示されます。
- ステップ 4** [Next] をクリックします。
- ステップ 5** VM の名前を入力し、OVA を導入する場所を選択します。[Next] をクリックします。
- ステップ 6** OVA のインストール先のデータセンターまたはクラスタを選択します。[Next] をクリックします。
- ステップ 7** VM ストレージプロファイルを選択します。[Next] をクリックします。
- ステップ 8** ディスク フォーマットを選択します。[Next] をクリックします。
- ステップ 9** 必要に応じて、OVA が導入に使用するネットワークを選択します。[Next] をクリックします。
- ステップ 10** 選択したオプションを確認し、変更が必要ない場合は、[終了 (Finish)] をクリックして OVA のインストールを開始します。

インストールが完了すると、新しくインストールされた仮想マシンが vCenter 内の選択した場所に表示されます。

仮想マシンでの Cisco Prime Collaboration Deployment の設定

Cisco Prime Collaboration Deployment は OVA インストールの一部としてインストールされますが、Cisco Prime Collaboration Deployment を設定する必要があります。

手順

-
- ステップ 1** [vCenter] ウィンドウで、新しくインストールされた仮想マシン コンソールを開きます。
- ステップ 2** 仮想マシンの電源をオンにします。
- インストールが自動的に開始されます。
- ステップ 3** 既存の設定情報があるかどうかの確認を求められたら、[続行 (Continue)] をクリックして続行します。
- [プラットフォーム インストール ウィザード (Platform Installation Wizard)] 画面が表示されます。
- ステップ 4** [Proceed (続行)] をクリックして、ウィザードを続行します。
- ステップ 5** [基本インストール (Basic Install)] 画面で、[継続 (Continue)] をクリックします。
- ステップ 6** [タイムゾーン設定 (Timezone Configuration)] 画面で、タイムゾーンを選択して [OK] をクリックします。
- ステップ 7** [自動ネゴシエーション設定 (Auto Negotiation Configuration)] 画面で、[継続 (Continue)] をクリックします。
- ステップ 8** OS デフォルトの MTU サイズを変更するかどうかを尋ねられたら、[No (いいえ)] をクリックして続行します。
- ステップ 9** ネットワーク設定では、ノードにスタティックネットワーク IP アドレスを設定するか、Dynamic Host Configuration Protocol (DHCP) を使用するかを選択できます。スタティック IP アドレスの使用が推奨されます。DHCP を使用する場合は、スタティック DHCP を使用してください。
- ネットワーク内に設定されている DHCP サーバがある場合に DHCP を使用するときは、[はい (Yes)] をクリックします。ネットワークが再起動し、[管理者ログイン設定 (Administrator Login Configuration)] ウィンドウが表示されます。
 - ノードに静的 IP アドレスを設定する場合は、[いいえ (No)] をクリックします。[静的ネットワーク設定 (Static Network Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 10** DHCP を使用しないことを選択した場合は、静的ネットワーク設定の値を入力して [OK] をクリックします。
- [DNS クライアント設定 (DNS Client Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 11** DNS を有効にするには [はい (Yes)] をクリックしてから、DNS クライアントの情報を入力して [OK] をクリックします。
- ネットワークが新しい設定情報を使用して再起動し、[管理者ログイン設定 (Administrator Login Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 12 管理者ユーザ名とパスワードを入力します。

(注) 管理者ユーザ名は、先頭がアルファベットで 6 文字以上必要です。英数字、ハイフン、およびアンダースコアを使用できます。Cisco Unified Communications Operating System Administration、コマンドライン インターフェイス、およびディザスタ リカバリ システムにログインするには、管理者ユーザ名が必要です。

ステップ 13 証明書情報を入力します。

- マニュアルの構成
- 単位
- 場所
- 状態
- 国

ステップ 14 [OK] をクリックして続行します。

ステップ 15 Network Time Protocol (NTP) クライアント設定情報を入力します。この設定をテストするには、[Test (テスト)] をクリックします。

ステップ 16 NTP を設定するには、[Proceed (続行)] をクリックします。

ステップ 17 画面の指示に従って、セキュリティ パスワードを入力します。

(注) FIPS モード、コモンクライテリア、または拡張セキュリティ モードを有効にする前に、セキュリティ パスワードが最小 14 文字以下であることを確認します。

ステップ 18 プラットフォームの設定が完了したら、[OK] をクリックしてインストールを完了します。インストールが完了するまで数分かかります。

インストール後のタスク

手順

ステップ 1 バックアップを設定します。Cisco Prime Collaboration Deployment を頻繁にバックアップするようにしてください。バックアップスケジュールの設定方法の詳細については、[CLI コマンドおよびディザスタ リカバリ システム](#) を参照してください。

ステップ 2 有効な Network Time Protocol (NTP) があることを確認します。この確認を行うには、Cisco Prime Collaboration Deployment CLI にログインし、**utils ntp status** コマンドを実行します。

